

重要カレイ類の資源評価と管理技術に関する研究

(資源評価調査)

金元保之・寺門弘悦・沖野 晃

1. 研究目的

本県底びき網漁業の重要な漁獲対象であるムシガレイ、ソウハチおよびアカガレイの資源状況について科学的評価を行うとともに、資源の適切な保全と合理的かつ持続的利用を図るための提言を行うことを目的とする。

2. 研究方法

漁獲統計資料は当センター漁獲管理情報処理システムにより抽出し、魚種別銘柄別漁獲量の集計を行った。また、市場調査ならびに買い取り調査を実施し、調査当日の漁獲物の精密測定を実施し、体長組成を推定した。さらに、これらの調査結果をもとに（国研）水産研究・教育機構および関係各府県の水産研究機関と協力し、魚種別の資源評価を行った。

3. 研究結果

(1) 重要カレイ類の漁獲状況調査

ムシガレイ、ソウハチおよびアカガレイについて漁業種別漁獲量を集計した。ムシガレイおよびソウハチについては浜田の沖合底びき網漁業で漁獲された銘柄別漁獲量を集計した。

(2) 生物情報収集調査

浜田市場において、ムシガレイおよびソウハチをそれぞれ2回、体長測定と買い取りによる精密測定を実施した。

図1に浜田、恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業（2そうびき）における重要カレイ類3種について1統当たり漁獲量の推移を示した。2019年漁期の漁獲量は、アカガレイが1トン、ソウハチが155トン、ムシガレイが231トンであった。また1統当たり漁獲量は、アカガレイが0.4トン、ソウハチが39トン、ムシガレイが58トンであり、平年比（過去10年）ではアカガレイは1%、ソウハチは100%、ムシガレイは92%であった。アカガレイについては、主にアカガレイを主体に漁獲していた漁船の廃業により2019年漁期は大幅に漁獲量が減少した。

(3) 結果の活用

調査結果は（国研）水産研究・教育機構日本海

区水産研究所に送付され、ムシガレイ、ソウハチおよびアカガレイの日本海系群の資源評価に活用された。また、（国研）水産研究・教育機構日本海区水産研究所が開催するブロック資源評価会議に参加し、資源管理方策の提言を行った。

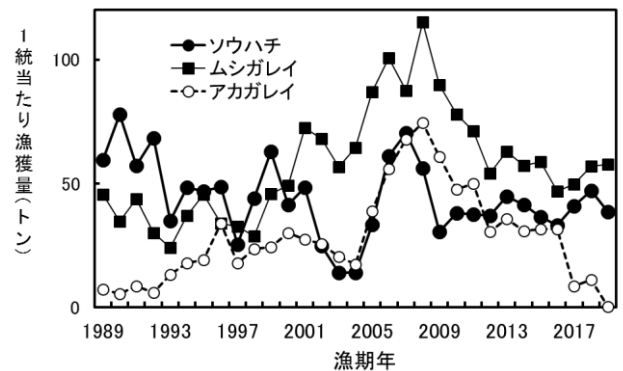


図1 浜田・恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業(2そうびき)における重要カレイ類の漁獲動向